



東北大学

令和6年度 一般選抜入学試験 個別学力試験  
出題意図

(国語)

前期日程

大問一

・ 出題意図

杉田敦『境界線の政治学』からの出題です。この文章は、国民という政治的な単位の成立を問い直し、国民形成（「国民化」）を必要とするような政治に対する考え方の流れを跡付けたうえで、二〇世紀のデモクラシーの時代に国民化の圧力がどのような問題を引き起こしたのかを指摘しています。分量が多く、聞きなれない専門的な表現もみられる文章ですが、論理的に組み立てられている文章です。抽象的な概念の内容をおさえて、論点を正確に理解し、要旨を簡潔にまとめる力を問う問題です。

・ 講評

問（一） 解答 (1)合致 (2)勘案 (3)眺 (4)至高 (5)顕著

基本的な常用漢字の知識を問う問題です。答えは楷書で、丁寧に書くことが必要です。走り書きしたような答案が少なからず見られたのは残念でした。(1)と(3)はよくできていましたが、(2)と(4)には同じ音を持つ他の漢字を用いた誤答が見られました。また、(5)は旧字体を用いた答案が若干見られました。

問（二）

国民形成（「国民化」）という専門的な概念の内容を説明することを求めた問題です。傍線部からは離れますが、本文中のこの概念が用いられている箇所を追っていけば、領域内の多様性を抑圧して、義務教育等を通じて国民を同質化する政策を指すことが分かるはずですが、設問の意図を正確に読み取ることが必要です。産業化や国家の必要性などの説明を記してしまった答案が多く見られました。また、本文の内容に即した解答が求められますが、同質性を前提とした領域を設定すると記した答案も一定数見られました。

問（三）

「動物飼育術としての政治観」という、聞きなれない抽象的な概念の内容を、本文から取り出してくることが必要です。国民の生活を安定化させて国力を高めることや、国民の

生存を確保して繁殖を促すことを、政治の主要な課題とする政治観のことを指していることが、本文から読み取る問題です。

#### 問（四）

設問の箇所が続く段落後半部分の内容を要約する問題です。設定されている制限字数の中で、本文中で「第一に、」「第二に、」で始まる部分の内容を簡潔に要約することが必要となります。おおむね正しい答案が多かったのですが、言及すべき二つの事柄に触れていないものも散見されました。

#### 問（五）

「国民化の圧力が……二〇世紀に頂点に達した」という記述で始まる、本文の最後の段落を要約することが必要な問題です。具体的な事例を説明すると制限字数を超えてしまうので、設定された制限字数の中で、全体主義体制において国民の内部にある差異が不自然なものとして除去されたことや、福祉国家において国力の増進に寄与できない人間が排除されたことを、簡潔にまとめることが必要です。片方の事例にしか触れていない答案が数多く見られました。また、設問の段落から国民が「法的主体」とされたことの問題を指摘する答案も見られましたが、「二〇世紀において大きな問題となった」ことが問われていますので、設問の意図を正しく読み取ることが重要です。

## 大問二

### ・出題意図

久世光彦のエッセイ集『向田邦子との二十年』からの出題です。飛行機事故で急逝した作家向田邦子との生前の思い出、その遺品を目にした時の筆者の反応が淡々と描かれ、向田邦子という人物の魅力と二人の間に培われた特別な人間関係が、短い文章の中で余すところなく伝えられています。本文全体の内容をよく理解した上で、筆者や向田邦子による独特の言い回しが何を意味しているのかを推察し、わかりやすく表現する力が問われる問題です。

### ・講評

#### 問（一）

語句の文脈に即した意味を問う問題です。(1)と(2)は比較的よくできていましたが、(3)は文学作品の中では使われても日常的にはほとんど使われなくなっている言葉であるた

めか、誤答が多く見られました。

問（二）

筆者の言う「不運」の意味するところを後に続く叙述からの的確に捉えられるかどうか  
が問われています。おおむねよくできていました。

問（三）

この設問については、筆者が向田邦子の遺品として自分の万年筆を目撃したのをきっ  
かけに、二人が共有していた数々の思い出が蘇ったことが重要なポイントになります。  
答案では、筆者が万年筆を奪われた経緯やその時の感情の説明に多くの字数を費やし、  
万年筆を見た後の筆者の心の動きや感情が十分に表現されていないケースが少なからず  
見受けられました。

問（四）

「おしゃれ泥棒」はこのエッセイのタイトルでもあり、本文中2箇所に見えるキーワ  
ードです。この言葉がどのような意味で用いられているかを本文全体から読み取り、的  
確に表現することが求められます。傍線部の直前に書かれている「話」を奪う行為のみ  
を取り上げて答えている例が散見されました。

問（五）

向田邦子が生前口にしていた言葉を筆者がどう受けとめていたかを文脈に即して正し  
く捉え、適切に表現することができるかどうか問われています。この言葉のもとにな  
っていることわざ「おのれの頭の手を追い」の「追う」は「追い払う」の意味です  
が、これを「追い求める」と解して見当はずれな解答をした例が少なからず見られまし  
た。

## 大問三

・出題意図

室町時代の禅僧一休宗純の逸話を集めた江戸時代初期の仮名草子『一休ばなし』からの  
出題です。本文は『一休ばなし』巻の三の五「同じく口癖の薬を習ひ給ふ事」によるもの  
で、『一休ばなし』に収録されている他の多くの話と同様に、一休禅師の奇抜な発想と型  
破りな行動力を窺わせる内容です。難しい言葉も少なく比較的平易でわかりやすい文章  
です。基本的な古典文法と古語の知識をふまえた読解力、問われていることについて過不

足なく記述する表現力が求められます。

・講評

問（一）

古語の知識をもとに文脈に即した語句の意味を読み取る力を試す問題です。(1)、(2)ともによくできていましたが、(1)は「いかにもして」、(2)は「風情」の訳ができているかどうかで解答に違いが出ました。

問（二）

古語や古典文法の知識に加えて前後の文脈の正確な理解が必要な口語訳の問題です。全体として解答の方向性はつかめているものが多かったのですが、口語訳をするにあたって言葉を補うという点で必ずしも十分に文意が通じるように書かれていない例も多く見られました。

問（三）

先行する叙述の文意を正確に捉え、それを簡潔にまとめる力が必要とされる問題です。「さらば」で受けている前の二文との関係を読み取るころまではおおむねできていましたが、前文に記されている一休の二律背反的な心境を正しく理解して的確に表現できた例はわずかでした。特に直前に記されている「仏神の冥罰」が何によって起こるのかが理解できていない解答が少なからずありました。

問（四）

登場人物が見せた情動の原因をそれまでの話の展開をふまえて説明できるかどうかを問う問題です。方向性の異なる解答はほとんど見られず、全体的によくできていました。ただし、中には、主語を示さない解答、具体性を欠く解答など、わかりやすさに欠ける解答も見受けられました。

問（五）

この話の要点となる一休の「抜け句」すなわち「言い訳」が理解できているかどうかを問う問題です。全体的に「言い訳」の内実が十分に示されない大雑把な解答が目立ちました。前提となる本文の内容理解に誤りがある例も見られました。

大問四

・出題意図

唐宋八大家の一人ともされる蘇洵の文集『嘉祐集』に収められた「諫論」からの出題です。文中で蘇洵は、臣下に意見を言わせるためには、個人の素質に期待するより、賞罰によって言わざるを得ない客観的状況を作り出すことが肝要であると論じています。問（一）から問（五）への流れは、短い句や文の解釈および書き下し文の作成を進めつつ、次第に問題文全体の意味、主張の核心へと迫る構成になっています。問題文は前半が喩え話、後半がそれを踏まえた筆者の主張という構成になっており、修辞を適確に理解し、論理を精密にたどる力、読み取ったことを過不足なく説明する力が問われます。

・講評

問（一）

（1）、（2）とも比較的良好に出来ていました。ただ、意味は取れていると思われても漢字を書き間違えた答案が少なからず見受けられました。

問（二）

基本的な句型から成る文を口語訳する問題で、正答を導くためには、前後の文脈を適確に読み取ることが求められます。正答率は比較的高めでしたが、後半部分を誤っている解答がまれに見られました。

問（三）

（イ）では基本的な助字について、（ウ）では二重否定の句法についての理解を問う問題です。（イ）の「猶」を「なお……ごとし」とする解答が多く見られましたが、文脈から適切に判断することが求められます。（ウ）は比較的正答率が高くなりました。なお、「怯者」「不諫」の読み方については問題文の中に手掛かりがあるにもかかわらず、活用出来ていない解答が散見されました。

問（四）

傍線部の解釈を問う問題です。全体に「要は……に在る耳（のみ）」の解釈に苦しみ、さらには注が付されているにもかかわらず「勢」の意味が理解できなかったと思われる解答が少なくありませんでした。その結果として、問われている箇所ではなく前後の「勇」「怯」の説明をしてしまった解答、または極めて抽象的な意味を記した解答が多く見られました。

問（五）

筆者の考える「三代」と「末世」それぞれの状況を読み取り、制限字数内で過不足なく説明する問題です。「末世」の状況について誤った理解をしている解答が多く見られまし

たが、漢文の語法に沿った丁寧な読解が求められるところです。また、喩え話を事実と誤読した解答も散見されました。

### ○志願者へのメッセージ

本試験は、国語の基本的な読解力と的確な表現力を身につけた学生の選抜を目的として作題しています。これらの問題は、1) 論理的な文章の内容と抽象的な表現の意味を把握する読解力、2) 文学的な文章の内容と表現の意図を推察する読解力、3) 古文と漢文に関する基礎的な知識と読解力、4) 定められた字数の中で要点を的確に説明する表現力を評価する視点から作成しました。

論理的な文章では、専門的な概念や聞きなれない抽象表現の意味内容を、本文の記述から理解し、論点を正確に追いながら、著者の主張を把握することが重要です。文学的な文章では、著者の表現に込められた心情を推察する読解力が必要になります。論理的な文章でも、文学的な文章でも、読み取った内容を設問の指示に従って的確に表現できる能力を身につけてほしいと思います。古文・漢文は古語・漢語と古典文法・句法についての基礎的な知識をもとに、文章を丁寧に読み込んでいくことが必要となります。そのように読解した内容を、設問の意図に沿って、過不足なく現代の日本語で説明できる表現力も習得することに努めてください。